

○宍粟市個人情報保護条例

平成17年4月1日条例第18号

改正

平成17年12月27日条例第253号

平成19年9月20日条例第28号

平成21年3月6日条例第7号

宍粟市個人情報保護条例

目次

- 第1章 総則（第1条—第5条）
- 第2章 実施機関における個人情報の取扱い（第6条—第13条の2）
- 第3章 個人情報ファイル（第14条—第16条）
- 第4章 開示、訂正及び利用停止（第17条—第43条）
- 第5章 不服申立て（第44条—第47条）
- 第6章 宍粟市個人情報保護審議会（第48条・第49条）
- 第7章 雑則（第50条—第57条）
- 第8章 罰則等（第58条—第62条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、個人情報の閲覧請求等の権利を保障し、市の実施機関の保有する個人情報の適正な取扱いについて必要な事項を定めることにより、公正で民主的な市政の実現を図り、もって市民の基本的人権を擁護することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 個人情報 個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。
- (2) 保有個人情報 実施機関の職員（地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第1項に規定する一般職及び特別職をいい、宍粟市立学校設置条例（平成17年宍粟市条例第185号）第2条に規定する小学校及び中学校に勤務する市町村立学校職員給与負担法（昭和23年法律第135号）第1条に規定する職員を含む。以下同じ。）が職務上作成し、又は取得した個人情報であつて、当該実施機関の職員が組織的に利用するものとして、当該実施機関が保有しているものをいう。ただし、公文書（宍粟市情報公開条例（平成17年宍粟市条例第17号）第2条第2号に規定する公文書をいう。以下同じ。）に記録されているものに限る。
- (3) 実施機関 宍粟市情報公開条例第2条第1号に規定する実施機関をいう。

(4) 事業者 法人その他の団体（国、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。）及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。）及び事業を営む個人をいう。

(5) 個人情報ファイル 保有個人情報を含む情報の集合物であつて、次に掲げるものをいう。  
ア 一定の事務の目的を達成するために特定の保有個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの  
イ アに掲げるもののほか、一定の事務の目的を達成するために氏名、生年月日その他の記述等により特定の保有個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成したもの

(6) 本人 個人情報によって識別される特定の個人をいう。

（市民の責務）

第3条 市民は、相互に個人情報の保護の重要性を認識し、この条例により保障された権利を正當に行使するとともに、個人情報の保護に関する市の施策に協力しなければならない。

（実施機関の責務）

第4条 実施機関は、この条例の目的を達成するため、個人情報の適正な取扱いについて必要な措置を講ずるとともに、あらゆる施策を通じて個人情報の保護に努めなければならない。

（事業者の責務）

第5条 事業者は、個人情報の保護の重要性を認識し、個人情報に係る基本的人権の侵害を防止するための措置を講ずるとともに、個人情報の保護に関する市の施策に協力しなければならない。

## 第2章 実施機関における個人情報の取扱い

（個人情報の保有の制限等）

第6条 実施機関は、個人情報を保有するに当たっては、法令又は条例（以下「法令等」という。）に定める所掌事務を遂行するため必要な場合に限り、かつ、その利用の目的を具体的かつ個別的に特定しなければならない。

2 実施機関は、前項の規定により特定された利用の目的（以下「利用目的」という。）の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を保有してはならない。

3 実施機関は、利用目的を変更する場合には、変更前の利用目的と関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えて行ってはならない。

4 実施機関は、次に掲げる個人情報を取得し、又は保有してはならない。ただし、法令等に基づくとき、又は実施機関が第48条に規定する宍粟市個人情報保護審議会（次条、第12条、第16条及び第17条において「審議会」という。）の意見を聴いて、正当な行政執行の範囲内であることが明らかであると認めるときは、この限りでない。

(1) 思想、信条及び宗教に関するもの

(2) 個人の特質を規定する身体に関するもの

(3) 社会的差別の原因となるもの

(取得方法の制限)

第7条 実施機関は、個人情報を取得するときは、業務の内容、取得の目的等を明らかにして、本人から直接取得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、次の各号のいずれかに該当する場合は、本人以外のものから個人情報を取得することができる。

(1) 本人の同意があるとき。

(2) 法令等に基づくとき。

(3) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急を要するとき。

(4) 出版又は報道により既に公にされているとき。

(5) 国、独立行政法人等若しくは他の地方公共団体（以下これらを「国等」という。）又は他の実施機関から第12条第2項各号のいずれかの規定により個人情報の提供を受け、取得するとき。

(6) 前各号に掲げるもののほか、審議会の意見を聴いて公益上特に必要があると認めるとき。

3 実施機関は、前項第6号の規定により本人以外のものから個人情報を取得したときは、実施機関が別に定める場合を除き、その旨を本人に通知し、又は公表しなければならない。

4 法令等の規定により、本人が申請行為その他これに類する行為を行った場合は、第1項の規定による取得がなされたものとみなす。

(正確性の確保)

第8条 実施機関は、利用目的の達成に必要な範囲内で、保有個人情報が過去又は現在の事実と合致するよう努めなければならない。

(安全確保の措置)

第9条 実施機関は、保有個人情報の漏えい、滅失又は損傷の防止その他の保有個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 実施機関は、保有個人情報の取扱いについて適正な管理を行うために必要な管理者等を置くものとする。

(受託者の義務)

第10条 実施機関から個人情報を取り扱う業務の処理を受託した者（以下「受託者」という。）

は、保有個人情報の漏えい、紛失、改ざん、破損その他の事故を防止し、適切な管理及び安全の保護を図るために必要な措置を講じなければならない。

2 実施機関は、受託者に対し、個人情報の取扱いについて適正な管理を行うために必要な措置を講じさせなければならない。

(従事者の義務)

第11条 個人情報の取扱いに従事する実施機関の職員若しくは職員であつた者又は前条第1項の受託業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た個人情報の内容を正当な理由なく他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

(利用及び提供の制限)

第12条 実施機関は、法令等に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために保有個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、利用目的以外の目的のために保有個人情報を自ら利用し、又は提供することができる。ただし、保有個人情報を利用目的以外の目的のために自ら利用し、又は提供することによって、本人又は第三者の権利利益を侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。

(1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。

(2) 実施機関が法令等の定める所掌事務の遂行に必要な限度で保有個人情報を内部で利用する場合であって、当該保有個人情報を利用することについて合理的な理由のあるとき。

(3) 国等又は他の実施機関に保有個人情報を提供する場合において、保有個人情報の提供を受ける者が、法令等の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、当該個人情報を利用することについて合理的な理由のあるとき。

(4) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急を要するとき。

(5) 出版又は報道により既に公にされているとき。

(6) 前各号に掲げるもののほか、実施機関が審議会の意見を聴いて公益上特に必要があると認めたととき。

3 実施機関は、前項第6号の規定により利用又は提供を行おうとするときは、実施機関が別に定める場合を除き、事前にその旨を本人に通知し、又は公表しなければならない。

4 実施機関は、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、保有個人情報の利用目的以外の目的のための実施機関の内部における利用を特定の内部組織に限るものとする。

5 実施機関は、第2項第3号の規定に基づき、保有個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、保有個人情報の提供を受ける者に対し、提供に係る個人情報について、その利用の目的若しくは方法の制限その他必要な制限を付し、又はその漏えいの防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講ずることを求めるものとする。

(出資法人の義務)

第13条 市が出資する法人で規則で定めるものが個人情報を保有するときは、この条例の趣旨を十分尊重し、個人情報の適正な管理について必要な措置を講ずるものとする。

(指定管理者の義務)

第13条の2 指定管理者（地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）は、当該公の施設の管理運営において取得した個人情報について、この条例の趣旨を十分尊重し、個人情報の適正な管理について必要な措置を講ずるものとする。

2 指定管理者若しくは指定管理者であった団体又は指定管理者に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た個人情報の内容を正当な理由なく他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

3 市長は、第1項の場合において、個人情報の保護に関して必要な事項を指定管理者との間で締結する協定に盛り込まなければならない。

### 第3章 個人情報ファイル

(個人情報ファイルの保有等に関する事前届出)

第14条 実施機関が個人情報ファイルを保有しようとするときは、あらかじめ市長に次に掲げる事項を届け出なければならない。届け出た事項を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 個人情報ファイルの名称
- (2) 当該実施機関の名称、個人情報ファイルが利用に供される事務をつかさどる課等の組織名称及び管理責任者等
- (3) 個人情報ファイルの利用目的
- (4) 個人情報ファイルに記録される項目及び本人として個人情報ファイルに記録される個人の範囲
- (5) 個人情報ファイルに記録される個人情報（以下この条において「記録情報」という。）の取得方法
- (6) 記録情報を当該実施機関以外の者に経常的に提供する場合には、その提供先
- (7) 第31条第1項ただし書又は第38条第1項ただし書に該当するときは、その旨
- (8) その他市長が定める事項

2 前項の規定は、次に掲げる個人情報ファイルについては適用しない。

- (1) 専ら試験的な電子計算機処理の用に供するための個人情報ファイル
- (2) 1年以内に消去することとなる記録情報のみを記録する個人情報ファイル
- (3) 資料その他の物品若しくは金銭の送付又は業務上必要な連絡のために利用する記録情報を記録した個人情報ファイルであって、送付又は連絡の相手方の氏名、住所その他の送付又は連絡に必要な事項のみを記録するもの

3 実施機関は、第1項に規定する事項を届け出た個人情報ファイルについて、その保有をやめたときは、遅滞なく、市長にその旨を届け出なければならない。

(個人情報ファイル簿の作成及び公表)

第15条 市長は、前条第1項の規定による届出を受理したときは、同項各号の届出事項を記載した個人情報ファイル簿を作成し、公表しなければならない。

2 実施機関は、保有している個人情報ファイルの目録を作成し、閲覧に供するものとする。

3 前項の規定は、前条第2項各号の個人情報ファイルについては、適用しない。

(電子計算機等の接続の制限)

第16条 実施機関は、電子計算機の接続（通信回線を用いた電子計算機その他の情報機器の接続により、実施機関の保有する個人情報を実施機関以外のものが随時入手できる状態にする方法をいう。以下同じ。）により、実施機関以外のものに対し、保有個人情報を提供してはならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、法令等に定めがあるとき、又は審議会の意見を聴い

て、公益上の必要があり、かつ、個人の権利利益を侵害するおそれがないと認めるときは、電子計算機の接続により保有個人情報を提供することができる。その内容を変更しようとするときも、同様とする。

- 3 前項の規定により電子計算機の接続をした場合において、実施機関は、保有個人情報の漏えい又は不適正な利用により、個人の基本的権利が侵害されるおそれがあると認めるときは、接続した提供先に対し、報告を求めるとともに、必要な調査を行わなければならない。
- 4 実施機関は、前項の規定による報告又は調査により、個人の基本的権利が侵害されると認めるときは、あらかじめ、審議会の意見を聴き、個人情報の保護に関し必要な措置を講じなければならない。
- 5 実施機関は、個人の基本的権利が侵害されるおそれについて、明白かつ差し迫った危険があると認めるときは、前2項の規定にかかわらず、報告を求めず、又は審議会の意見を聴かずに必要な措置を講ずることができる。この場合において、実施機関は、当該措置を講じた後、速やかに、その旨を審議会に報告しなければならない。

#### 第4章 開示、訂正及び利用停止

##### (開示請求権)

第17条 何人も、この条例の定めるところにより、実施機関に対し、当該実施機関の保有する自己に関する保有個人情報の開示を請求することができる。

- 2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わって前項の規定による開示の請求(以下「開示請求」という。)をすることができる。
- 3 次に掲げる者は、死者を本人とする保有個人情報の開示請求をすることができる。
  - (1) 死者の法定代理人であった者
  - (2) 死者の配偶者(婚姻の届出をしていないが当該死者の死亡当時事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含む。)、子又は父母(当該死者の死亡に関する情報及び慰謝料請求権、遺贈その他の当該死者の死亡に起因して相続以外の原因により取得した権利義務に関する情報に限る。)
  - (3) 死者の相続人(当該死者からの相続を原因として取得した権利義務に関する情報に限る。)
  - (4) 前3号に掲げる者のほか、審議会の意見を聴いた上で、死者に代わって開示請求をすることができる実施機関が認めた者

##### (開示請求の手続)

第18条 開示請求は、次に掲げる事項を記載した書面(以下「開示請求書」という。)を実施機関に提出してしなければならない。

- (1) 開示請求をする者の氏名及び住所又は居所
- (2) 開示請求に係る保有個人情報が記録されている公文書の名称その他の開示請求に係る保有個人情報を特定するに足りる事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、実施機関が定める事項

2 前項の場合において、開示請求をする者は、規則で定めるところにより、開示請求に係る保有個人情報の本人若しくはその法定代理人又は前条第3項に規定する死者の關係人若しくは相続人であることを示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

3 実施機関は、開示請求書に形式上の不備があると認めるときは、開示請求をした者（以下「開示請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。この場合において、実施機関は、開示請求者に対し、補正の参考となる情報を提供するよう努めなければならない。

（保有個人情報の開示義務）

第19条 実施機関は、開示請求があったときは、開示請求に係る保有個人情報に次に掲げる情報（以下「不開示情報」という。）のいずれかが含まれている場合を除き、開示請求者に対し、当該保有個人情報を開示しなければならない。

(1) 法令等の規定により開示することができないとされているもの

(2) 開示請求者（第17条第2項の規定により未成年者又は成年被後見人の法定代理人が本人に代わって開示請求をする場合にあつては、当該本人をいう。次号及び第4号、次条第2項並びに第26条第1項において同じ。）の生命、健康、生活又は財産を害するおそれがある情報

(3) 開示請求者以外の個人情報又は開示請求者以外の特定の個人を識別することはできないが、開示することにより、なお開示請求者以外の個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア 法令等の規定により又は慣行として開示請求者が知ることができ、又は知ることが予定されている情報

イ 人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報

ウ 当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和22年法律第120号）第2条第1項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第2項に規定する特定独立行政法人の役員及び職員を除く。）、独立行政法人等の役員及び職員並びに地方公務員法第3条に規定する地方公務員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び当該職務遂行の内容に係る部分

(4) 法人等に関する情報又は開示請求者以外の事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報を除く。

ア 開示することにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの

イ 実施機関の要請を受けて、開示しないとの条件で任意に提供されたものであつて、法人等又は個人における通例として開示しないこととされているものその他の当該条件を付す

ることが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

(5) 市の内部又は市と国等の相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、開示することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの

(6) 市又は国等が行う事務に関する情報であって、開示することにより、次に掲げるおそれその他当該事務の性質上、当該事務の適正な執行に支障を及ぼすおそれがあるもの

ア 監査、検査、取締り又は試験に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ

イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、市又は国等の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ

ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ

エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ

(部分開示)

第20条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合において、不開示情報に該当する部分を容易に区分して除くことができるときは、開示請求者に対し、当該部分を除いた部分につき開示しなければならない。

2 開示請求に係る保有個人情報に前条第3号の情報（開示請求者以外の特定の個人を識別することができるものに限る。）が含まれている場合において、当該情報のうち、氏名、生年月日その他の開示請求者以外の特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、開示しても、開示請求者以外の個人の権利利益が害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号の情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

(裁量的開示)

第21条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合であっても、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、開示請求者に対し、当該保有個人情報を開示することができる。

(保有個人情報の存否に関する情報)

第22条 開示請求に対し、当該開示請求に係る保有個人情報が存在しているか否かを答えるだけで、不開示情報を開示することとなるときは、実施機関は、当該保有個人情報の存否を明らかにしないで、当該開示請求を拒否することができる。

(開示請求に対する措置)

第23条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部又は一部を開示するときは、その旨の決定をし、速やかに、開示請求者に対し、その旨、開示する保有個人情報の利用目的及び開示の実施に関し規則で定める事項を書面により通知しなければならない。

2 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部を開示しないとき（前条の規定により開示

請求を拒否するとき、及び開示請求に係る保有個人情報を保有していないときを含む。)は、開示をしない旨の決定をし、速やかに、開示請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

- 3 実施機関は、第1項の規定により開示請求に係る個人情報の一部を開示しないとき、又は前項の規定により開示請求に係る個人情報の全部を開示しないときは、開示請求者に対し、前2項に規定する書面にその理由を示さなければならない。この場合において、当該理由は、開示しないこととする根拠規定及び当該規定を適用する根拠が、当該書面の記載自体から理解できるものでなければならない。

(開示決定等の期限)

第24条 前条第1項又は第2項の決定(以下「開示決定等」という。)は、開示請求書を受理した日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第18条第3項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を開示請求書を受理した日から起算して60日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は遅滞なく、延長の期間及び延長の理由を開示請求者に対し、書面により通知しなければならない。

(開示決定等の期限の特例)

第25条 開示請求に係る保有個人情報が著しく大量であるため、開示請求書を受理した日から起算して60日以内にそのすべてについて開示決定等を行うことにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、前条の規定にかかわらず、実施機関は、開示請求に係る保有個人情報のうちの相当の部分につき当該期間内に開示決定等をし、残りの保有個人情報については相当の期間内に開示決定等をするれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、開示請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

- (1) この条の規定を適用する旨及びその理由
- (2) 残りの保有個人情報について開示決定等をする期限

(第三者に対する意見書提出の機会の付与等)

第26条 開示請求に係る保有個人情報に国等及び開示請求者以外の者(以下この条、第45条及び第46条において「第三者」という。)に関する情報が含まれているときは、実施機関は、開示決定等をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、規則で定めるところにより、当該第三者に関する情報の内容その他規則で定める事項を通知して、意見書を提出する機会を与えることができる。

- 2 実施機関は、次の各号のいずれかに該当するときは、開示決定に先立ち、当該第三者に対し、規則で定めるところにより、開示請求に係る当該第三者に関する情報の内容その他規則で定める事項を書面により通知して、意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、当該第三者の所在が判明しない場合は、この限りでない。

- (1) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を開示しようとする場合であつて、当

該第三者に関する情報が第19条第3号イ又は同条第4号ただし書に規定する情報に該当すると認められるとき。

(2) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を第21条の規定により開示しようとするとき。

3 実施機関は、前2項の規定により意見書の提出の機会を与えられた第三者が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、開示決定をするときは、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、実施機関は、開示決定後直ちに、当該意見書（第44条及び第45条において「反対意見書」という。）を提出した第三者に対し、開示決定をした旨及びその理由並びに開示を実施する日を書面により通知しなければならない。

(開示の実施)

第27条 保有個人情報の開示は、当該保有個人情報が、文書、図画又は写真（これらを撮影したマイクロフィルムを含む。以下同じ。）に記録されているときは閲覧又は写しの交付により、電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）に記録されているときはその種別、情報化の進展状況等を勘案して実施機関が定める方法により行う。ただし、閲覧の方法による保有個人情報の開示にあつては、実施機関は、当該保有個人情報が記録されている文書、図画又は写真の保存に支障を生ずるおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があるときは、その写しにより、これを行うことができる。

(簡易な開示)

第28条 実施機関があらかじめ定める保有個人情報については、本人が開示請求をしようとするときは、第18条第1項の規定にかかわらず、当該実施機関が定める簡易な方法により、本人が開示請求をすることができる。

2 前項の規定により開示請求をしようとする者は、第18条第2項の規定にかかわらず、実施機関に対し、自己が当該開示請求に係る保有個人情報の本人であることを証明するために必要な書類で実施機関が定めるものを提示しなければならない。

3 実施機関は、第1項の規定により開示請求があつたときは、第23条第1項及び第24条の規定にかかわらず、直ちに保有個人情報を開示しなければならない。この場合において、当該保有個人情報の開示の方法は、前条の規定にかかわらず、実施機関が定める方法によるものとする。

(他の法令等による開示の実施との調整)

第29条 実施機関は、他の法令等（宍粟市情報公開条例を除く。本条及び第31条において同じ。）の規定により、開示請求者に対し開示請求に係る保有個人情報が第27条に規定する方法と同一の方法で開示することとされている場合（開示の期間が定められている場合にあつては、当該期間内に限る。）には、同条の規定にかかわらず、当該保有個人情報については、当該同一の方法による開示を行わない。ただし、当該他の法令等の規定に一定の場合には開示をしない旨の定めがあるときは、この限りでない。

2 他の法令等の規定に定める開示の方法が縦覧であるときは、当該縦覧を第27条の閲覧とみなして、前項の規定を適用する。

(費用負担)

第30条 開示に係る手数料は、宍粟市手数料条例（平成17年宍粟市条例第85号）の定めるところによる。

2 第27条の規定により写しの交付を受ける者は、規則で定めるところにより、当該写しの作成及び送付に要する費用を負担しなければならない。

(訂正請求権)

第31条 何人も、自己に関する保有個人情報（次に掲げるものに限る。第38条第1項において同じ。）の内容が事実でないと思料するときは、この条例の定めるところにより、当該保有個人情報を保有する実施機関に対し、当該保有個人情報の訂正（追加又は削除を含む。以下同じ。）を請求することができる。ただし、当該保有個人情報の訂正に関して他の法令等の規定により特別の手続が定められているときは、この限りでない。

(1) 開示決定に基づき開示を受けた保有個人情報

(2) 開示決定に係る保有個人情報であつて、第29条第1項の他の法令等の規定により開示を受けたもの

2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わつて前項の規定による訂正の請求（以下「訂正請求」という。）をすることができる。

(訂正請求の手続)

第32条 訂正請求は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「訂正請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。

(1) 訂正請求をする者の氏名及び住所又は居所

(2) 訂正請求に係る保有個人情報の開示を受けた日その他当該保有個人情報を特定するに足りる事項

(3) 訂正請求の趣旨及び理由

(4) 前3号に掲げるもののほか、規則で定める事項

2 前項の場合において、訂正請求をする者は、規則で定めるところにより、訂正請求に係る保有個人情報の本人であること（前条第2項の規定による訂正請求にあつては、訂正請求に係る保有個人情報の本人の法定代理人であること）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

3 実施機関は、訂正請求書に形式上の不備があると認めるときは、訂正請求をした者（以下「訂正請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。

(保有個人情報の訂正義務)

第33条 実施機関は、訂正請求があつた場合において、当該訂正請求に理由があると認めるときは、当該訂正請求に係る保有個人情報の利用目的の達成に必要な範囲内で、当該保有個人情報の訂正をしなければならない。

(訂正請求に対する措置)

第34条 実施機関は、訂正請求に係る保有個人情報の訂正をするときは、その旨の決定をし、速やかに、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

2 実施機関は、訂正請求に係る保有個人情報の訂正をしないときは、その旨の決定をし、速やかに、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

(訂正決定等の期限)

第35条 前条又は第1項又は第2項の決定(以下「訂正決定等」という。)は、訂正請求書を受理した日から起算して30日以内にしなければならない。ただし、第32条第3項の規定により補正を求めた場合にあっては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を訂正請求書を受理した日から起算して60日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は遅滞なく、延長の期間及び延長の理由を訂正請求者に対し、書面により通知しなければならない。

(訂正決定等の期限の特例)

第36条 実施機関は、訂正決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に訂正決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、訂正請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

- (1) この条の規定を適用する旨及びその理由
- (2) 訂正決定等をする期限

(保有個人情報の提供先への通知)

第37条 実施機関は、訂正決定に基づく保有個人情報の訂正の実施をした場合において、必要があると認めるときは、当該保有個人情報の提供先に対し、遅滞なく、その旨を書面により通知するものとする。

(利用停止請求権)

第38条 何人も、自己に関する保有個人情報が次の各号のいずれかに該当すると思料するときは、この条例の定めるところにより、当該保有個人情報を保有する実施機関に対し、当該各号に定める措置を請求することができる。ただし、当該保有個人情報の利用の停止、消去又は提供の停止(以下「利用停止」という。)に関して他の法令等の規定により特別の手續が定められているときは、この限りでない。

- (1) 当該保有個人情報を保有する実施機関により適法に取得されたものでないとき、第6条第2項の規定に違反して保有されているとき、又は第12条第1項及び第2項の規定に違反して利用されているとき 当該保有個人情報の利用の停止又は消去
- (2) 第6条第4項の規定に違反して取得され、又は保有されているとき 当該保有個人情報の消去
- (3) 第12条第1項及び第2項の規定に違反して提供されているとき 当該保有個人情報の提

## 供の停止

2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わって前項の規定による利用停止の請求（以下「利用停止請求」という。）をすることができる。

### （利用停止請求の手続）

第39条 利用停止請求は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「利用停止請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。

- （1） 利用停止請求をする者の氏名及び住所又は居所
- （2） 利用停止請求に係る保有個人情報の開示を受けた日その他当該保有個人情報を特定するに足りる事項
- （3） 利用停止請求の趣旨及び理由
- （4） 前3号に掲げるもののほか、規則で定める事項

2 前項の場合において、利用停止請求をする者は、規則で定めるところにより、利用停止請求に係る保有個人情報の本人であること（前条第2項の規定による利用停止請求にあつては、利用停止請求に係る保有個人情報の本人の法定代理人であること。）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

3 実施機関は、利用停止請求書に形式上の不備があると認めるときは、利用停止請求をした者（以下「利用停止請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。

### （保有個人情報の利用停止義務）

第40条 実施機関は、利用停止請求があつた場合において、当該利用停止請求に理由があると認めるときは、当該実施機関における個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な限度で、当該利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をしなければならない。ただし、当該保有個人情報の利用停止をすることにより、当該保有個人情報の利用目的に係る事務の性質上、当該事務の適正な遂行に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められるときは、この限りでない。

### （利用停止請求に対する措置）

第41条 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をするときは、その旨の決定をし、速やかに、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

2 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報の利用停止をしないときは、その旨の決定をし、速やかに、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

### （利用停止決定等の期限）

第42条 前条又は第1項又は第2項の決定（以下「利用停止決定等」という。）は、利用停止請求書を受理した日から起算して30日以内にならなければならない。ただし、第39条第3項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を利用停止請求書を受理した日から起算して60日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は遅滞なく、延長の期間及び延長の理由を利用停止請

求者に対し、書面により通知しなければならない。

(利用停止決定等の期限の特例)

第43条 実施機関は、利用停止決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に利用停止決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、利用停止請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

- (1) この条の規定を適用する旨及びその理由
- (2) 利用停止決定等をする期限

#### 第5章 不服申立て

(不服申立て)

第44条 開示決定等、訂正決定等又は利用停止決定等について行政不服審査法（昭和37年法律第160号）による不服申立てがあったときは、当該不服申立てに対する裁決又は決定をすべき市長又は実施機関は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、遅滞なく、宍粟市個人情報保護審議会に諮問しなければならない。

- (1) 不服申立てが不適法であり、却下するとき。
  - (2) 裁決又は決定で、不服申立てに係る開示決定等（開示請求に係る保有個人情報の全部を開示する旨の決定を除く。以下この号及び第46条において同じ。）を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る保有個人情報の全部を開示することとするとき。ただし、当該開示決定等について反対意見書が提出されているときを除く。
  - (3) 裁決又は決定で、不服申立てに係る訂正決定等（訂正請求の全部を容認して訂正をする旨の決定を除く。）を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る訂正請求の全部を容認して訂正することとするとき。
  - (4) 裁決又は決定で、不服申立てに係る利用停止決定等（利用停止請求の全部を容認して利用停止をする旨の決定を除く。）を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る利用停止請求の全部を容認して利用停止をすることとするとき。
- 2 前項の規定により諮問した市長又は実施機関（以下「諮問実施機関」という。）は、当該諮問に対する答申があったときは、これを尊重して同項の不服申立てに対する裁決又は決定を行わなければならない。

(諮問をした旨の通知)

第45条 諮問実施機関は、次に掲げる者に対し、諮問をした旨を通知しなければならない。

- (1) 不服申立人及び参加人
  - (2) 開示請求者、訂正請求者又は利用停止請求者（これらの者が不服申立人又は参加人である場合を除く。）
  - (3) 当該不服申立てに係る開示決定等について反対意見書を提出した第三者（当該第三者が不服申立人又は参加人である場合を除く。）
- (第三者からの不服申立てを棄却する場合等における手続等)

第46条 第26条第3項の規定は、次の各号のいずれかに該当する裁決又は決定をする場合について準用する。

- (1) 開示決定に対する第三者からの不服申立てを却下し、又は棄却する裁決又は決定
- (2) 不服申立てに係る開示決定等を変更し、当該開示決定等に係る保有個人情報を開示する旨の裁決又は決定（第三者である参加人が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示している場合に限る。）

（調査権限）

第47条 宍粟市情報公開条例第22条の規定は、第44条第1項の規定による諮問に基づき、宍粟市個人情報保護審議会が行う調査に係る権限について準用する。この場合において、宍粟市情報公開条例第22条第1項中「開示決定等」とあるのは「開示決定等、訂正決定等又は利用停止決定等」と、「公文書の提示」とあるのは「保有個人情報の提示」と、「公文書の開示」とあるのは「保有個人情報の開示」と、同条第3項中「開示決定等」とあるのは「開示決定等、訂正決定等又は利用停止決定等」と、「公文書に記録されている情報」とあるのは「保有個人情報」と読み替えるものとする。

## 第6章 宍粟市個人情報保護審議会

（宍粟市個人情報保護審議会）

第48条 この条例による個人情報保護制度の適正な運営を図り、及び個人情報保護制度の運営に関する重要事項について調査審議するため、市長の附属機関として宍粟市個人情報保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

- 2 審議会は、委員5人以内をもって構成し、委員は、個人情報保護に関し優れた識見を有する者の中から、市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任されることができる。
- 4 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 審議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

（審議会の運営）

第49条 審議会に会長及び副会長を置き、会長及び副会長は、審議会において、委員の互選により定める。

- 2 会長は、審議회를代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 4 審議会の会議は、会長が招集し、その会議の議長となる。ただし、会長及び副会長を互選する会議は、市長が招集する。
- 5 審議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 6 審議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

7 前各項に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長又は審議会が定める。

## 第7章 雑則

(適用除外)

第50条 この条例の規定は、次に掲げる個人情報については、適用しない。

- (1) 統計法（平成19年法律第53号）第2条第6項に規定する基幹統計調査及び同条第7項に規定する一般統計調査に係る調査票情報に含まれる個人情報その他の同法第52条第1項に規定する個人情報
- (2) 統計法第24条第1項の規定により総務大臣に届け出られた統計調査に係る調査票情報に含まれる個人情報
- (3) 市立図書館その他の図書、資料、刊行物等（以下「図書等」という。）を閲覧に供し、又は貸し出すことを目的とする施設において、その目的のために管理されている図書等に記録されている個人情報

(開示請求等をしようとする者に対する情報の提供等)

第51条 実施機関は、開示請求、訂正請求又は利用停止請求（以下この条において「開示請求等」という。）をしようとする者がそれぞれ容易かつ的確に開示請求等を行うことができるよう、当該実施機関が保有する保有個人情報の特定に資する情報の提供その他開示請求等をしようとする者の利便を考慮した適切な措置を講ずるものとする。

(事業者等への指導又は助言)

第52条 市長は、個人情報の適正な取扱いを確保するため、市域内の事業者及び市民自らが必要な措置を講ずるよう指導又は助言に努めなければならない。

(苦情の処理)

第53条 実施機関は、当該実施機関が行う保有個人情報の取扱いに関する苦情の申出があったときは、迅速かつ適切な処理に努めなければならない。

(苦情相談の処理)

第54条 市長は、事業者が行う個人情報の取扱いに関する苦情の相談があったときは、適切かつ迅速な処理に努めなければならない。

(運用状況の公表)

第55条 市長は、毎年この条例の運用状況について取りまとめ、これを公表するものとする。

(市長の調整)

第56条 市長は、市長以外の実施機関に対し、保有個人情報の取扱いに関し、報告を求め、又は指導若しくは助言を行うことができる。

(委任)

第57条 この条例の施行に関し必要な事項は、実施機関が定める。

## 第8章 罰則等

(罰則)

第58条 次の各号のいずれかに該当する者は、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

(1) 正当な理由なく、個人の秘密に属する事項が記録された第2条第5号アに係る個人情報ファイル（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。次号において同じ。）を提供した実施機関の職員又は職員であった者

(2) 正当な理由なく、個人の秘密に属する事項が記録された第2条第5号アに係る個人情報ファイルを提供した第10条第1項の受託業務に従事している者又は従事していた者（次条において「受託業務従事者」という。）

第59条 次の各号のいずれかに該当する者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

(1) 業務に関して知り得た保有個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用した実施機関の職員又は職員であった者

(2) 業務に関して知り得た保有個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用した受託業務従事者

第60条 実施機関の職員がその職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画、写真又は電磁的記録を取得したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

（両罰規定）

第61条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関して第58条第2号又は第59条第2号に規定する違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても、各本条の罰金刑を科する。

（過料）

第62条 偽りその他不正の手段により、開示決定に基づく保有個人情報の開示を受けた者は、5万円以下の過料に処する。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の山崎町電子計算機処理に係る個人情報の保護に関する条例（平成元年山崎町条例第27号）、一宮町電子計算組織に係る個人情報の保護に関する条例（平成2年一宮町条例第2号）、波賀町電子計算組織にかかる個人情報の保護に関する条例（平成6年波賀町条例第3号）又は千種町電子計算機処理に係る個人情報の保護に関する条例（平成元年千種町条例第29号）（以下これらを「合併前の条例」という。）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

3 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお合併前の条例の例による。

附 則（平成17年12月27日条例第253号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成19年9月20日条例第28号抄）

(施行期日)

1 この条例は、平成19年10月1日から施行する。

附 則 (平成21年3月6日条例第7号)

この条例は、平成21年4月1日から施行する。